

6. 家計の状況と経済意識

6-1. 本人年収と月間小遣い(Q35,FS7)

【男性】

年収についてみると、【若年独身】は「300万円未満」が半数(51.1%)を占め、【継続独身】、【若年無子家族】に比べて平均年収は低い。

(平均年収:【若年無子家族】432万円 > 【継続独身】405万円 > 【若年独身】272万円)

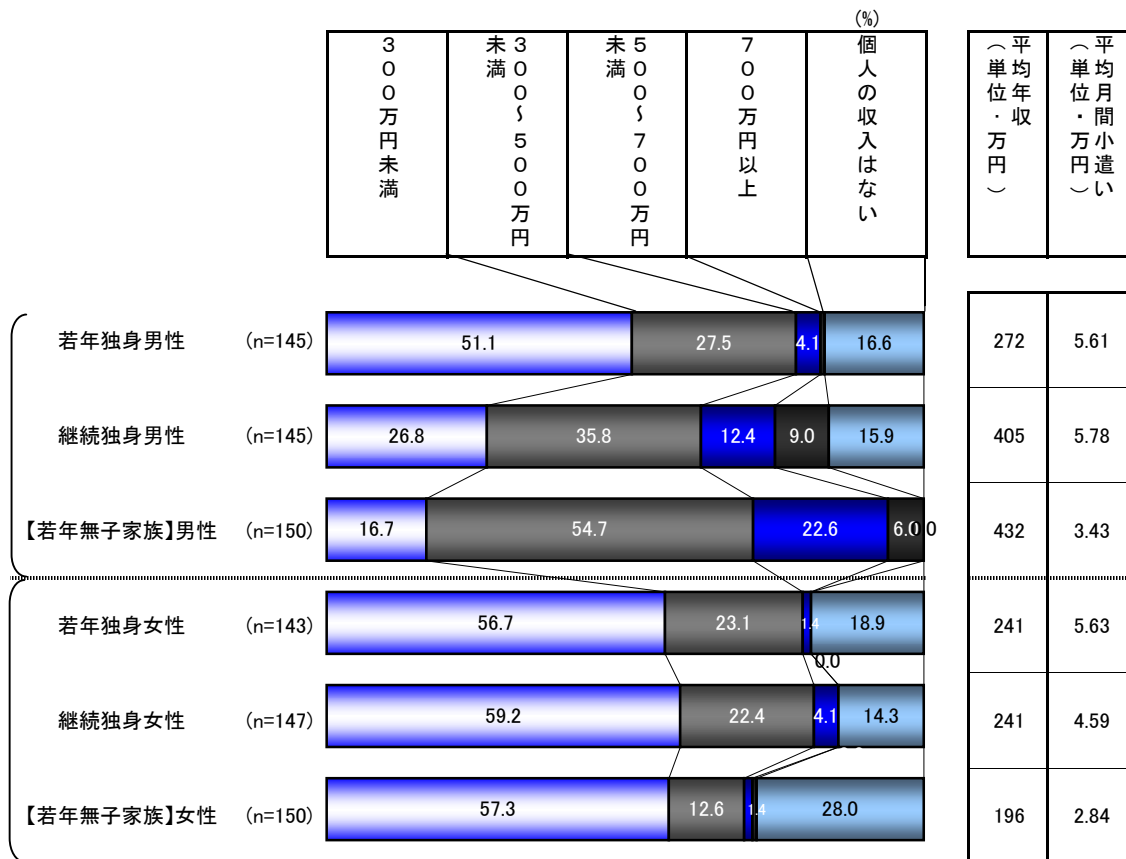
ただし、小遣いは独身グループの方が【若年無子家族】より高額である。

(月間小遣い平均:【継続独身】5.8万円 > 【若年独身】5.6万円 > 【若年無子家族】3.4万円)

【女性】

女性の本人年収はどのグループも「300万円未満」が半数以上を占め、平均年収は200万円前後となっている。月間小遣いは【若年独身】(5.6万円)が最も高く、【継続独身】(4.6万円)【若年無子家族】(2.84万円)の順になっている。

図表6-1. 本人の年収および月間平均小遣い(各単数回答)(基数:勤労者・無回答を除く)



(注)平均は非勤労者,無記入を除いて算出

6-2. 昨年と比較しての年収の増減および家計のゆとり(Q37.38)

6-2-1. 昨年と比較しての年収増減(Q37)

【男性】

【若年無子家族】と【若年独身】では、「増えた」が「減った」を上回っているが、【継続独身】では「減った」人の方が多い。

【女性】

女性の場合ほとどのグループも「減った」人が「増えた」人を上回っている。

6-2-2. 家計のゆとり(Q38)

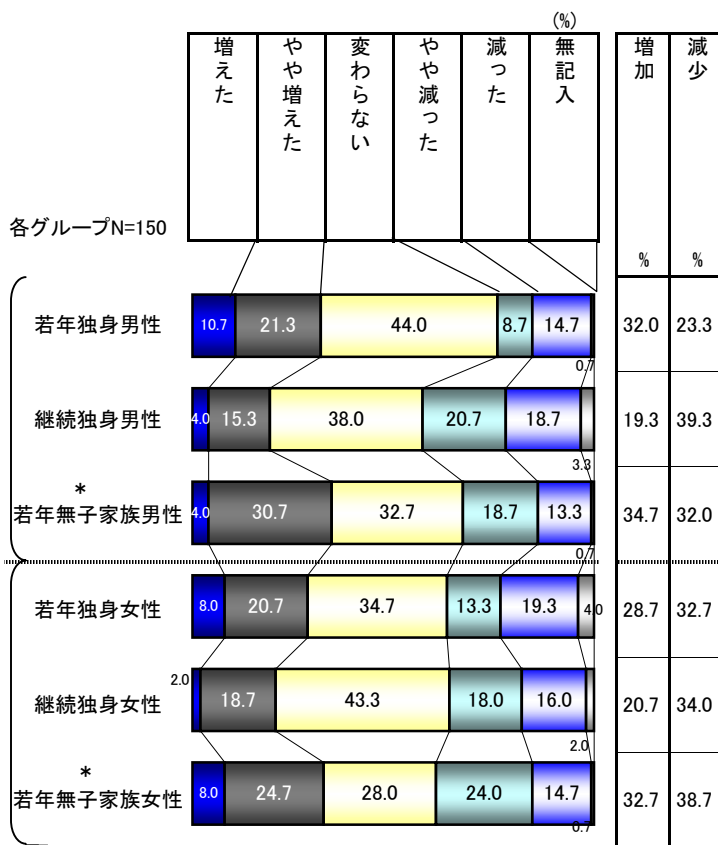
【男性】

どのグループにおいても「あまりゆとりがない／全くゆとりがない」と答える人が大半であるが、特に【継続独身】では「全くゆとりがない」と答える割合が高くなっている。

【女性】

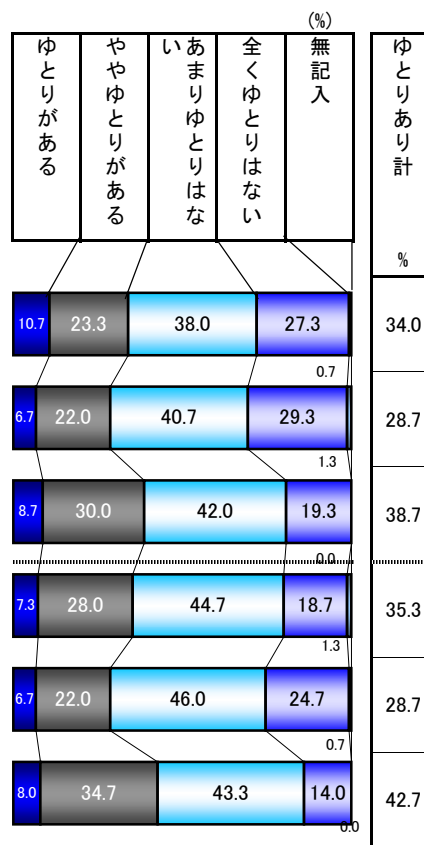
女性の場合も男性と同様の傾向がある。

図表6-2-1. 昨年と比較しての年収増減
(単数回答)(基数:全体)



* 既婚者は世帯年収

図表6-2-2. 家計のゆとり
(単数回答)(基数:全体)



6-3. 家に入れている生活費(Q40)

単身で暮らしている人の割合をみると、【継続独身】の男性が最も多く、3割近くを占める。

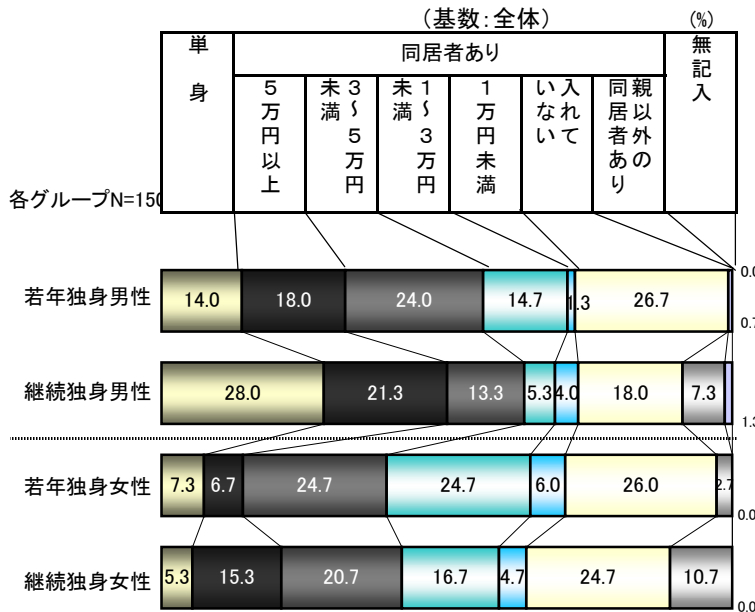
女性の単身者は【継続独身】でも1割に満たない。

親と同居をしている人に限って、家に入れている生活費の金額をみると、どのグループも7割前後が生活費を入れているが、「5万円以上」入れている人は多くない。

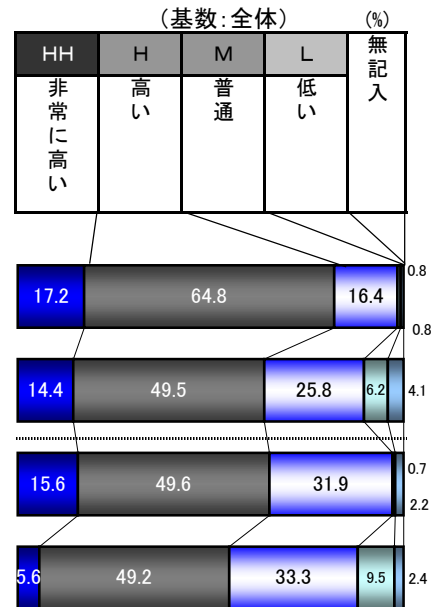
「3万円以上」入れている人の割合は女性では4割前後、男性では5割前後である。

女性の方が親に対する経済的依存度は高いが、家事の依存度と経済的依存度から親に対する依存度をみると、【若年独身】の男性が最も高く、【継続独身】の女性が最も低くなっている。

図表6-3. 家に入れている生活費(単数回答)



図表6-4. 依存度



図表6-5. 親と同居者の家に入れている生活費(単数回答)
(基数:親との同居者)

	n	以5万円	未3万円	未5万円	未1万円	い入れてない	無記入
若年独身男性	128	21.1%	28.1%	17.2%	1.6%	31.3%	0.8%
継続独身男性	97	33.0%	20.6%	8.2%	6.2%	27.8%	4.1%
若年独身女性	135	7.4%	27.4%	27.4%	6.7%	28.9%	2.2%
継続独身女性	126	18.3%	24.6%	19.8%	5.6%	29.4%	2.4%

		家事の実行者		
		自分	両方	自分以外
い家に生活費	生活費3万円以上	L	M	H
	生活費3万円未満			
	入れていない	H		HH
	無記入			